

第4回京丹波町地域福祉計画策定委員会次第

平成28年6月24日（金）  
午後1時30分～  
瑞穂保健福祉センター

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 町長あいさつ
- 4 委員長あいさつ
- 5 自己紹介
- 6 協議事項
  - (1) 関係団体等懇談会についてのとりまとめ報告について
  - (2) アンケート調査結果及び関係団体等懇談会からみる課題について
  - (3) アンケート自由記載とりまとめ報告について
  - (4) 次回の日程調整  
平成28年 月 日（ ）
- 7 閉会

## 地域福祉計画策定に伴うヒアリング実施者一覧(関係団体)

| 連番 | 団体名                 | 分類  |
|----|---------------------|-----|
| 1  | 京丹波町社会福祉協議会         | 総合  |
| 2  | 京丹波町民生児童委員協議会       | 総合  |
| 3  | 京丹波町老人クラブ連合会        | 高齢者 |
| 4  | 京丹波町シルバー人材センター      | 高齢者 |
| 5  | 京丹波町身体障害者福祉会        | 障がい |
| 6  | 京丹波町身体障害者を守る会       | 障がい |
| 7  | 京丹波町母子寡婦福祉会         | 子ども |
| 8  | NPO法人 クローバー・サービス    | 高齢者 |
| 9  | NPO法人 まごころサービス あい・愛 | 高齢者 |
| 10 | NPO法人 さわやかライフ       | 高齢者 |
| 11 | NPO法人 スマイル          | 障がい |
| 12 | 竹野小学校               | 子ども |
| 13 | 丹波ひかり小学校            | 子ども |
| 14 | 下山小学校               | 子ども |
| 15 | 瑞穂小学校               | 子ども |
| 16 | 和知小学校               | 子ども |
| 17 | 蒲生野中学校              | 子ども |
| 18 | 瑞穂中学校               | 子ども |
| 19 | 和知中学校               | 子ども |
| 20 | 須知幼稚園               | 子ども |
| 21 | 上豊田保育所              | 子ども |
| 22 | みずほ保育所              | 子ども |
| 23 | わちエンジェル             | 子ども |

地域福祉計画策定に伴うヒアリング実施者一覧(ボランティア)

| 連番 | 地区 | ボランティアグループ名              | 活動内容                                  | 分類   |
|----|----|--------------------------|---------------------------------------|------|
| 1  | 瑞穂 | くるみの会                    | 高齢者対象調理・栄養指導                          | 高齢者  |
| 2  | 瑞穂 | 収集ボランティア めぐみ             | 障がい者問題啓発活動資金のための古切手・書き損じはがき収集         | 障がい者 |
| 3  | 瑞穂 | 要約筆記ボランティア ささやき          | 聞こえの不自な方への文字情報提供                      | 障がい者 |
| 4  | 瑞穂 | 朗読ボランティア あかり             | 聴覚障害者への町広報誌等の朗読等の録音、声のお便り             | 障がい者 |
| 5  | 瑞穂 | くらしの応援ボランティア 手作り介護用品コスモス | 布・タオルを使用した手作り介護用品製作                   | 高齢者  |
| 6  | 瑞穂 | くらしの応援ボランティア ダイナミックス     | 高齢者・障がい者世帯を中心に草刈、日曜大工等                | 高齢者  |
| 7  | 瑞穂 | デイサービス助ボランティア あじさい       | 山彦苑・金木犀・社協のデイサービスでの話し相手、車イス介助、外出支援    | 高齢者  |
| 8  | 瑞穂 | 押し花ボランティア 花かご            | 赤ちやんの誕生を祝う押し花、お誕生カード、デイサービス利用者の誕生祝品製作 | 子ども  |
| 9  | 瑞穂 | 傾聴ボランティア なかよし会           | 独居高齢者宅を訪問し、相手の心に寄り添いながら話を聴く           | 高齢者  |
| 10 | 瑞穂 | 手話サークル いちよう              | 初心者からの手話勉強会                           | 障がい者 |
| 11 | 瑞穂 | ハッピーマロン                  | 親子料理・お菓子作りを通じた食育                      | 子ども  |
| 12 | 瑞穂 | コーラスサークル カナリア            | 高齢者施設や敬老会でのコーラス                       | 高齢者  |
| 13 | 瑞穂 | 京丹波スリーA                  | 簡単ゲームにより、やささと笑いで脳の活性化を図る              | 高齢者  |
| 14 | 丹波 | グリーンハイツすみれ会              | 独居高齢者・高齢者世帯を対象                        | 高齢者  |
| 15 | 丹波 | グリーンハイツなごみ会              | ふれあいサロンの開催                            | 地域ボラ |
| 16 | 丹波 | 富田菰(はぎ)の会                | ふれあいサロンの開催・友愛訪問・見守り活動                 | 地域ボラ |
| 17 | 丹波 | 豊田あじさいの会                 | ふれあいサロンの開催・独居高齢者・高齢者世帯を対象に食事会開催       | 地域ボラ |
| 18 | 丹波 | 蒲生ボランティアグループ             | ふれあいサロンの開催・美化活動・食事会開催                 | 地域ボラ |
| 19 | 丹波 | 竹野ほほえみの会                 | 竹野サロン・独居高齢者・高齢者世帯を対象に食事会開催            | 地域ボラ |
| 20 | 丹波 | モンキーズ&ハッピーサークル           | 美化活動・アルミ缶収集                           | 地域ボラ |
| 21 | 丹波 | 傾聴ボランティア うさぎの耳           | 独居高齢者等宅を訪問し、心に寄り添いながら話を聴く             | 高齢者  |
| 22 | 丹波 | 要約筆記サークル イヤフレンズ          | 聞こえの不自な方に文字情報を伝える                     | 障がい者 |
| 23 | 丹波 | 朗読ボランティア ともしび            | 聴覚障害者への町広報誌等の朗読等の録音、声のお便り             | 障がい者 |
| 24 | 丹波 | 暮らしの応援ボランティア ひらめき会       | 布・タオルを再利用し、暮らしに役立つものの製作               | 地域ボラ |
| 25 | 丹波 | 絵手紙ボランティア                | 絵手紙作成・サロン等での出前教室                      | 地域ボラ |
| 26 | 丹波 | 押し花ボランティア すずらん           | 新生児の誕生祝押し花カード製作                       | 子ども  |
| 27 | 丹波 | 保育ボランティアキティ              | 子育て支援センターや須知幼稚園の行事等における乳幼児の保育         | 子ども  |
| 28 | 丹波 | 子育てサークルさくらんぼ             | 子育てサロンの開催                             | 子ども  |
| 29 | 丹波 | あそび広場 もこもこ               | 絵本の読み聞かせ・親子で取り組める催し企画実施               | 子ども  |
| 30 | 丹波 | 民謡みやび会                   | 高齢者施設や敬老会での民謡・三味線の演奏                  | 高齢者  |
| 31 | 丹波 | 苑(その)の会                  | 高齢者施設や敬老会での舞踊                         | 高齢者  |
| 32 | 丹波 | 瑞舟(ずいゆう)会                | 高齢者施設や敬老会での舞踊                         | 高齢者  |
| 33 | 丹波 | 丹波せせらぎ会                  | 高齢者施設や敬老会での大正琴の演奏                     | 高齢者  |
| 34 | 丹波 | すみれ会                     | 高齢者施設や敬老会での大正琴の演奏・合唱                  | 高齢者  |
| 35 | 丹波 | フラダンスサークル アロハ フラ ピカケ     | 高齢者施設や敬老会でのフラダンス                      | 高齢者  |
| 36 | 丹波 | 愛(めぐみ)の会                 | 高齢者施設等で理美容活動                          | 高齢者  |
| 37 | 丹波 | 和太鼓舞                     | 地域行事や施設等で和太鼓演奏・体験会の開催                 | 地域ボラ |

地域福祉計画策定に伴うヒアリング実施者一覧(ボランティア)

| 連番 | 地区 | ボランティアグループ名       | 活動内容                                    | 分類   |
|----|----|-------------------|---|------|
| 38 | 和知 | みんなの手をつなごう会       | 長老苑への訪問・清掃活動・ふれあい活動                     | 高齢者  |
| 39 | 和知 | 大迫グループ            | 長老苑への訪問・清掃活動・地域の高齢者への弁当配食・訪問活動・ふれあい活動   | 高齢者  |
| 40 | 和知 | 要約筆記サークル くさぶえ     | 聞こえの不自由な方に文字情報を伝える                      | 障がい者 |
| 41 | 和知 | 七八会               | 共同作業所「ともども」での作業支援                       | 障がい者 |
| 42 | 和知 | 手芸ボランティア モチーフ     | 町内での寄付による毛糸を使用しての作品作り・公共施設への寄贈・バザー出品    | 地域ボラ |
| 43 | 和知 | 虹の会               | 独居高齢者への友愛訪問・地域の高齢者の見守り                  | 高齢者  |
| 44 | 和知 | 十三の会              | 共同作業所「ともども」での作業支援                       | 障がい者 |
| 45 | 和知 | 朗読ボランティア こだま会     | 視覚障がいのある方などに町広報誌などを朗読                   | 障がい者 |
| 46 | 和知 | 大正琴同好会            | 高齢者施設や夏祭りイベントでの演奏・研修会                   | 高齢者  |
| 47 | 和知 | ガイドヘルパーみちづれ       | 視覚障がい者の外出支援・身障福祉会・スポーツ交流会の手伝い           | 障がい者 |
| 48 | 和知 | 配食ボランティア          | かけはし弁当・給食の配食・利用者安否確認                    | 高齢者  |
| 49 | 和知 | 調理ボランティア          | かけはし弁当づくり                               | 高齢者  |
| 50 | 和知 | 彩いろグループ           | かけはし弁当常絵の色塗り                            | 高齢者  |
| 51 | 和知 | 才原グループふきのとう       | かけはし弁当常絵の色塗り                            | 高齢者  |
| 52 | 和知 | 押し花カード作り ボランティア天花 | 押し花で赤ちゃんの誕生を祝うカード作り、亡くなられた方へお悔やみカード等の製作 | 子ども  |

## 京丹波町地域福祉計画策定委員会委員

自：平成27年8月26日

至：平成29年3月31日

| 番号 | 選出区分       | 所 属                               | 氏 名   | 備 考                   |
|----|------------|-----------------------------------|-------|-----------------------|
| 1  | 学識経験者      | (京丹波町地域自立支援協議会)                   | 波瀬 孝澄 |                       |
| 2  | 学識経験者      | (京丹波町地域包括ケア推進委員会)<br>京丹波町身体障害者福祉会 | 片山 俊明 | 兼関係団体の役職員             |
| 3  | 学識経験者      | (京丹波町子ども・子育て審議会)                  | 大西 好美 |                       |
| 4  | 関係団体の役職員   | 京丹波町民生児童委員協議会                     | 田中 強  |                       |
| 5  | 関係団体の役職員   | 京丹波町女性の会                          | 竹内 裕子 |                       |
| 6  | 関係団体の役職員   | 京丹波町老人クラブ連合会                      | 山上 幸二 | (H28.6.24から)          |
| 7  | 関係団体の役職員   | 京丹波町母子寡婦福祉会                       | 谷山 和子 |                       |
| 8  | 関係団体の役職員   | 京丹波町社会福祉協議会                       | 津田 勝二 |                       |
| 9  | 関係団体の役職員   | 京丹波町シルバー人材センター                    | 友金 一文 |                       |
| 10 | 町長が必要と認める者 | 京丹波町議会福祉厚生常任委員会                   | 梅原 好範 | (H27.11.25から<br>選出替え) |
| 11 | 町長が必要と認める者 | 京丹波町消防団                           | 隅田 光郎 | (H28.6.24から)          |
| 12 | 町長が必要と認める者 | 京丹波町商工会                           | 野間 之暢 |                       |
| 13 | 町長が必要と認める者 | 竹野活性化委員会                          | 中西 和之 |                       |
| 14 | 町長が必要と認める者 | 質美地域振興会                           | 高橋 弘  |                       |
| 15 | 町長が必要と認める者 | 北部振興会                             | 今海 博文 |                       |
| 16 | 町長が必要と認める者 | ボランティアバンク運営委員会                    | 木上 寛  |                       |
| 17 | 町長が必要と認める者 | 町内校園長会                            | 野口 博之 | (H28.6.24から)          |
| 18 | 関係行政機関の職員  | 国保京丹波町病院                          | 藤田 正則 |                       |
| 19 | 関係行政機関の職員  | 京都府南丹保健所                          | 山崎 正則 |                       |

|       |                      |        |  |
|-------|----------------------|--------|--|
| 事 務 局 | 保健福祉課長               | 大西 義弘  |  |
|       | 子育て支援課長              | 津田 知美  |  |
|       | 保健福祉課 課長補佐(包括支援センター) | 井上 祐子  |  |
|       | 保健福祉課 課長補佐兼介護保険係長    | 岡本 明美  |  |
|       | 保健福祉課 課長補佐(福祉係)      | 上原 美智子 |  |
|       | 保健福祉課 課長補佐(福祉係)      | 豊嶋 浩史  |  |
|       | 保健福祉課 福祉係長           | 芦谷 真由美 |  |

～ 京丹波町地域福祉計画策定に向けて ～

## 関係団体等懇談会についてのとりまとめ

### 1. 懇談会開催の趣旨

- 地域福祉計画は既存の対象者が明確化された福祉の計画（高齢者、障がい者、子ども）とは異なり、対象者を限定するものではありません。京丹波町で生活するすべての方にとっての“福祉”という観点で、自助・共助・公助を基本としながら、地域における福祉の仕組みづくりを行うための計画です。
- そのため、この懇談会は地域で主体的に活動されている様々な団体の代表等の皆様から、日ごろの活動の中で把握されている地域の声や課題等を直接うかがい、計画に反映することを目的として、平成28年5月31日に実施しました。

### 2. 関係団体懇談会への参加団体

○懇談会へ参加いただいた団体は以下のとおりです。

| 連番 | グループA                       | グループB                   | グループC                  |
|----|-----------------------------|-------------------------|------------------------|
| 1  | 京丹波町民生児童委員協議会               | 京丹波町身体障害者福祉会            | 京丹波町社会福祉協議会            |
| 2  | みずほ保育所                      | 京丹波町母子寡婦福祉会             | NPO 法人<br>さわやかライフ      |
| 3  | 要約筆記ボランティア<br>ささやき          | 朗読ボランティア<br>あかり         | デイサービス介助ボランティア<br>あじさい |
| 4  | くらしの応援ボランティア<br>手作り介護用品コスモス | 傾聴ボランティア<br>なかよし会       | 手話サークル<br>いちよう         |
| 5  | くらしの応援ボランティア<br>ダイナミックス     | 傾聴ボランティア<br>うさぎの耳       | 京丹波スリーA                |
| 6  | 押し花ボランティア<br>花かご            | 子育てサークル<br>さくらんぼ        | 朗読ボランティア<br>ともしび       |
| 7  | ハッピーマロン                     | フラダンスサークル<br>アロハ フラ ピカケ | 保育ボランティア<br>キティ        |
| 8  | コーラスサークル<br>カナリア            | ガイドヘルパー<br>みちづれ         | あそび広場<br>もこもこ          |
| 9  | 要約筆記サークル<br>イヤフレンズ          |                         | 民謡みやび会                 |
| 10 | 押し花ボランティア<br>すずらん           |                         | 七八会                    |
| 11 | 調理ボランティア                    |                         |                        |
| 12 | 彩いろグループ                     |                         |                        |

○なお、懇談会に参加いただいた30団体だけでなく、懇談会への参加が困難な団体からも広く意見を聴取する観点から、懇談会の開催前に対象となる約80団体にヒアリングシートを配布、54団体の代表者の方から地域における課題等について回答をいただいています。

### 3. 懇談会における主な意見

#### (1) 地域の認識と活動について

- 地域は自分が暮らす集落単位という認識である。
- 自身の活動は合併前の地域での活動である。
- 最近は他の旧地域での活動も増えてきた。支えが必要であれば、対応せざるをえないが、遠方だと移動にも時間がかかり、そこまでしなくてはいけないかという思いもある。
- 理想的には京丹波全体で一つになればよい。段階を踏んでいく必要がある。
- 旧地域を一つにするというよりは、関連するボランティアの団体間で情報共有をする程度がよい。
- 障がいがあることや高齢者であることから、行動範囲は狭くなる中で、行動範囲を京丹波全体に広げることは、経済的な理由も含めて難しい。京丹波町で無理に一つにするのではなく、それぞれの地域の良いところを京丹波町として打ち出していく方がよい。
- 和知は特に結束力が高く、近所で各々が助け合っている状況があり、3つの地域でまとまるのは難しい。
- フラダンスの活動の観点からは京丹波町全体で一つになっているが、別に行っている配食の支援ではそれぞれの地域性を感じる。
- 各地域のアイデアは知りたいが、現実的にはこれまでの地域のやり方で支援を行っている。
- 社協は旧町単位の支所で活動してきた。今年度より京丹波町全体で活動を行えるよう組織改編した。合併後10年経ったが、地域それぞれの特性は残っており、それを大切にしながら活動を進めていかなければいけない。現在は、京丹波全体の取り組みと、地域特性を活かした取り組みの双方から進めている途中段階である。組織改編後間もないが、物理的に距離が離れていることなど、運営上の課題はある。
- 依頼があれば旧町に関係なくどこでも活動しているので、旧町を意識することはない。
- 社協が一つになり、意見が届きにくくなったように感じる。京丹波町としてひとつになることも大切だが、地域のことは地域で守る意識は大切だと思う。
- 旧町にまたがる活動を行っている。合併当初に比べ、他町の方を受け入れる気持ちが広がってきたように感じる。
- 旧町や他町の枠組みにとらわれず、すべての子どもを受け入れるスタイルで活動している。
- 社協等については旧町の運営を合理化していく必要があるが、範囲を広げすぎない方が長期的にボランティアを継続できるのではないかと。今ある地域ごとの団結力を崩す必要はない。

#### (2) 旧地域や団体間の交流について

- 旧3地区合同で研修会を行っている。
- 同じ活動をする団体同士が顔を合わせる機会があり、交流も行っている。
- 社協の集まりで年に1回程度団体間の交流を行っている。
- 団体が集まる機会は、旧地域にもあり、京丹波全体でもあるというのがいい。
- ボランティアに関しては一人でいくつも参加している方が多く、団体で集まらなくても情報は収集できる。旧地域で活動できればいい。

- 社協の事業で福祉祭りがあり、各団体の活動を発表しており、交流や情報共有としては十分と感じる。
- それぞれの旧地域に同じ活動の団体があり、交流会はしている。最終的には一つの団体になれば、より幅広い活動ができると思う。
- 年に数回は地域の団体間の交流会を行っており、よいところを真似ていくようにすればよい。
- 婦人会では、3地域それぞれの良さを合わせることで、さらに良いものにしたいという強い気持ちで協議を重ねてきた。基本的には旧町にこだわらない活動が出来ていると思う。旧町の良さを活かした地域福祉計画が策定されればよいと思う。
- 「手話サークル」は現在京丹波町に1つしかなく、勉強会は瑞穂で開いており、和知・丹波の方は遠いため参加は少ない。無意識的に旧町の壁があるかもしれない。
- 要約筆記の活動は3町ではっきり分かれており、これまでのやり方も異なるため一緒になる予定はない。旧町の異なるサークル（瑞穂→和知のサークルなど）に依頼をするのは躊躇することがある。
- 基本的な活動は地域の作業所ごとに行っているが、3地域合同のイベントを行うなど交流は図れている。
- 朗読ボランティアは旧町ごとに3つある。数年前より、町内全体に配布される資料（広報など）については各月ごとに担当を決めて録音するようになった。しかし、ボランティア間の交流は全くなく、他の地域がどのように活動しているか全く把握できていない。
- 旧三町合同の交流事業は行われているが、和知のボランティアの方のことは把握できていない。
- 改めて話し合いの場を設ける必要はない。他団体との交流は、分野別（子ども、高齢者など）にはあっても良いかと思うが、分野を超えた交流の必要性は感じない。
- 社協では、3地域のボランティアの集いを行い、今年度も町全体のボランティア団体の交流会を予定している。

### (3)活動における課題について

- 要約筆記は実際に動ける方が少ない。また資格が必要なため、ボランティアの活動の後継者作りが課題である。
- 送迎サービスがなくなり、活動に参加されなくなった方がいる。
- ボランティア活動の内容をもっとアピールすべき。
- 行政はサービスの内容を周知するように努めるべき。
- 行政から民生委員への情報が限定されており、見守りに必要な情報もなかなか入らない状況である。
- 山村開発センターの利用の手続きが煩雑である。空いているスペースもあり、ボランティアが活用できるように管理をしてほしい。
- 行政に活動のための公共施設の利用を相談したところ、遠方で使用料がかかる施設を斡旋された。
- 日曜日に使える施設が必要。
- 介護ボランティアの数が少ない。会員がもう少し増えてほしいと思っている。
- 最近職員の移動が非常に多く、信頼関係を築くには時間がかかるため、今後は作業所の人間関係も考えた人事異動に考慮してほしい。



- ボランティアの為、距離の遠い地域への移動は難しく、出来る限り旧町の枠を出ない範囲で活動していきたいと思っている。
- 町からの依頼で外出支援などを行っているが、町からの補助金が少なく経営が厳しい。
- 金銭的には非常に厳しく、年に1度のリスナーとの交流会も予算がないため、活動が限られてしまう。
- 各地域に子どもを緊急時に預けることが出来るシステムがあるが、周知できていないことが課題。ファミリーサポートセンターで取り組んでいる。

#### (4)地域における課題について

- 高齢者で移動したくてもできない。特に高齢の女性の独居は増加しており、外出が難しい方が増える。
- 高齢者の方が外に出て動ける環境を作ってほしい。
- 若い人が少なく、今後もさらに減っていくことが問題の根幹である。
- 利己的な方が増えており、意識を変えていく取組も重要。何もかも福祉のサービスでフォローしてもらおうという考えは一つの問題。
- 学童の施設や図書館（読み聞かせができるなど）の利用をもう少しよくできないか。
- 他の地域から和知へ行くためのバスがない。有償でも構わないので、和知へ行くためのバスを利用できるようにしてほしい。
- 施設を所管する行政側が、例えば学校でいえば教育等の分野ごとに縦割りになっており、一般には施設が利用しづらい状況。利用してもらうための仕組みを考える必要がある。
- 教育等、他分野を福祉の中につなげていくことが重要。学校教育の中で老人会による知恵の伝達等を行っていければ、交流も生まれる。
- 旧町だけでなく、世代ごとに見えない壁を感じる。今日の参加は社協にサークル登録している団体だけだが、地域福祉を考えるうえでは、もっと広い範囲で考えなければ偏った計画になってしまう。
- 自宅保育のチラシを目にしたが、預けたい人が増える中、1か所では規模が小さい。同様の施設が広がっていけば助かる人は多いのではないかと。実態を町でも調べたうえで、取り組みを町で応援してほしい。
- 若い人は“共助”が苦手。面倒くさい、年上との交流が煩わしいという現状がある。婦人会にも参加する人は少ない。
- 運転免許があればだれでも送迎できるシステムがほしい。高齢者だけでなく子どもの送迎についても、登録制でピックアップしてもらえるサービスがほしい。

## 【参考】事前ヒアリングシートの見解のとりまとめ

### (1)地域の主な問題・課題

#### <ボランティアサークル(瑞穂地区)>

- 耳が聞こえにくいなどを他人に知られたくない方が多く、本人が聞こえたふりをしたり、人の集まりに参加されなくなる。孤立されない為にも、聞こえにくいのは高齢と共に受け入れ、要約筆記や補聴器などの知識を少しでも知ってほしい。
- 高齢化率もあがり、地域の行事への参加が負担になってくる場合にいかにかその負担を少なくするのか？
- どこかに移動したい場合、気軽に移動できる手段があればと思います。
- 住民ニーズへの積極的な対応がこの町は出来ていると思いますが、高齢化が進み、1人の方や2人で住んでいられる家が多くなり色々な面で心配です。例えば、病院行き、買い物など。
- これからますます増加する独居者の日常生活を支える事の必要性
- サービスが分離している。(例えば高齢者、子ども、障害者等それぞれが別のサービスを受けており、交われない。)
- 交通、買い物難民が多い。今後も増える。町営バスも料金が高く、気軽に利用できない。
- 少子高齢化(今後もますます進む)保育所等が決まっており、限られたサービスしか受けられないため子どもを預けて容易に働けない。
- 若い人の働く場所がない。限られている。⇒この地域を離れる。
- この地域にこれといった魅力がない。
- 町外から来る人を受け入れ難い。打ち解けようとしめない。
- 少子高齢化が加速し、周りに空き家が増えてきている。とても先々が心配。対策について知りたい(行政の)
- 松山の図書館を広くし、大人も子どももいつでも集まれる「学び・つながり」の場とならないか。情報交換の場にならないかと思う。多目的に考えられないか?とは思のですが。
- 高齢者が多くなり、独居や高齢者世帯が多くなってきている。その為、老老介護などが起こり、介護が困難であったり、病院に行こうにも交通手段が思うように整っていない。

#### <ボランティアサークル(丹波地区)>

- 台所(調理室)を増設してほしい(清涼館)
- 交通の不便なところ
- ふれあいサロンの活動を通して高齢者同士の交流はとても刺激になると思います。が、参加できない一人住まいの方は、今後どのように見守っていくのかサロンの時に皆で情報交換していけたらと思います。
- 蒲生には老人会が無く、又高齢化、1人暮らしが多くなってきている中で、お互いにふれあいの場を提供して、又は健康教室などを積極的に取り組みたい。
- 少子高齢化が進み、ボランティアをさせていただいている年代も60~70代が中心で、若い年代の参加が少ないのが悩みです。(今の若い人は忙しすぎるのでしょうか?それともそんな気持ちがないのでしょうか?私達にはわかりません。)
- お互い分かり合える関係を地域の多くの人と築くことが大切だと思うのですが、人それぞれなので、難しいと思う。
- 高齢化が進み、若い人が少ない。また一人暮らしの人も増えている。今まで地域でできていた活動ができにくくなっている。(例えば草刈り、美化作業、祭りなど)
- 少子高齢化、町財政の先行きが危ぶまれること
- 今は働くお母さんがほとんどなので、今後は閉鎖の方向です。丹波の方がほとんどで、瑞穂、和知の方はおられないのも課題です。
- 車が乗れなくなった年配の方の為の、交通手段が必要です。バス停まで、自宅が遠く、家族も遠く、お金もあまり使えず、そんな方々は自宅にこもりがちになってしまい、1回〇〇円と決めて車の送迎をしてもらう仕組みをつくってはどうか?
- ある地域の団体グループではないので特に問題はありません。

### <ボランティアサークル(和知地区)>

- 難聴者はたくさんおられます。まだまだ補聴器に抵抗がある人が多く、難聴者への理解も広がっていません。
- 若い世代にもっと関心を持って障害とは理解してもらい必要がある。限られたボランティアで一般の人には知られていない。
- 老人会は町を止める支部が多くなっている。区だけでの活動を続ける役が来るとしんどいとのこと。
- 近年ひとり暮らしや高齢世帯が増加し、介護支援やちょっとした困りごと相談、空き家対策等課題が山積している。
- 高齢化社会が進展する中で、加齢による身体機能が低下して、社会参加の機会が減少してくるので、地域の中での見守り活動を含め、対象者との関わりが大切である。
- どんな行事や活動についても、人口減少(若者が少なく無理もない)
- 若い人にボランティアに参加してもらえない。地域でボランティアをやっている人はどこのグループにも参加していて、これ以上はもう出来ない。

### <関係団体>

- 人口減少により地域での担い手も減ってきている。少ない人材の中で、役割を担うため一人で何役も兼ねておられる方が多い。(自治会、ボランティア、PTA、消防団等)
- 障害者を支える家族(親)の高齢化が問題となっている。障害を持つ方々が地域とのつながりをもちながら安心して生活できるグループホーム等の整備が必要と感じる。
- 高齢者の認知症
- 悪質商法による被害を出さない
- 児童虐待
- 安心・安全の施策が障害者にとって重要な要素
- 共同作業所の運営により、経営要素を取り入れ、障害者が経済的に自立できるよう、町全体の施策に取り入れる
- 高齢者増加に伴い、外出、寄り集り、近所付き合いなど個人主張する性格の人が多くなり、多様な対応が求められる。
- 町合併10年過ぎたが、和知の地域に合ったオリジナル性が出されなくなった。合併の弊害？
- 人口の減少と高齢化
- 少子高齢化による児童数の減少
- 少子高齢化(園児、保護者の減少)
- 近隣に働く場所がない

## (2)活用できそうな福祉資源

### <ボランティアサークル(瑞穂地区)>

- もう少し老人ホームなど増やしてほしいと思います。
- 定年退職したが、身体も元気に働ける方。
- 小さな子どもを家でみている保護者。(地域のいきいきサロン等に参加してもらうことで異世代交流にもなり、保護者の社会からの孤立も防げる。)
- 山村開発センターをもっと開放的に利用できるような管理方法を見直してほしい。せっかくの施設がもったいないと。もっと利用手続きを簡単な方法に変えてほしいと思う。調理室も床を這う配管がつまづいて危険。改装してもっと利用すべきだと思う。とにかくもったいない。是非見直しをお願いします。
- 福祉資源…難しいですね…例えば空き家利用とか? 空き家を利用して「〇〇ハウス」みたいなことをする。皆が気軽に集まって生活できたり…。

### <ボランティアサークル(丹波地区)>

- 畑川ダムの周辺
- 空地の活用(家庭菜園、花畑)
- 竹野地域の人々は、他人のことで自分のことのように心配して下さったり、親切な人が多いですし、団結力もあると思います。
- 「若竹センター」「食彩の工房」「各区の公民館」等を活用して、お互いが助け合いできる地域でありたいと思います。
- 福祉に関する勉強会を地域をあげて(区で)取り組むことが必要ではと思います関係機関の方にお越しいただいて。
- リアイヤして、自動車を運転できる元気なシニアの方々、その方々のちょっとしたお小遣い稼ぎにもなります。人の役に立つ喜びも味わえます。
- いろいろな所に福祉施設、障害者施設等で来ていますので、ボランティア活動していきたいと思っています。

### <ボランティアサークル(和知地区)>

- 老人の方は、地域にも施設が増えて受け入れの状況が進んでいるが、障害者の方はほとんど進んでいない。最近親も子ども高齢化し、一人暮らしの障害者も増えている。空き家などを借りてグループホームなど作る必要がある。障害のある人の一人暮らしは特に危険があるので、ぜひお願いしたい。共同生活することで気分も晴れ、情報交換もできる。
- 地域での人材育成（ボランティア活動）
- 空き家の有効活用

### <関係団体>

- 人材として、町内小中学生、高校生、林業大学校生等の学生だけでなく、高齢者でも元気な方々が多いため、うまく参加いただく方法を考える。
- 現在ある福祉施設も、本来利用対象としている方々以外にも活用できる方法を考える。(例えば、高齢者を対象とした施設を子どもの居場所としても活用する。)
- 空き家や空き店舗を今後もうまく活用していく。
- 道の駅のようなところに、共同作業所の取り組みを導入する(例：物作りから販売までをコーナーとして取り入れる)
- きれいな水⇒販売
- 炭焼き俵あみ⇒黒岸の販売
- わちの知恵袋の発掘⇒和知在住高齢者の知恵⇒製本
- 高齢者世代の活用(シルバー人材センター、ボランティア等)
- 思い浮かばない

## (3) 今後特に望まれる福祉施策や福祉サービス

### <ボランティアサークル(瑞穂地区)>

- 南丹市や亀岡市などのように、どのような小さな集会など、個人でも、様々な行事でも要約筆記を利用していただき、元気で明るく生活できる京丹波町であって欲しいです。
- 民生委員さんとの連携
- これからますます高齢化になり、デイサービスを利用される人が沢山あると思うので看護師を増員できることを望みます。
- 買い物難民に対する施策。(例えば町営バスを利用し、移動販売車を作るとか…)
- 福祉施設の増設はもちろんだが、介護スタッフの確保、育成、増員が望まれる。
- 若い世代が暮らしていくのに魅力的なサービス(例えば働きながら安心して子どもを育てることができる。病気の子や夜間対応の保育所があればいい。また、バス停から家まで一人で帰る子が増えているため、安心して家に着けるようにしてほしい等々)
- 頼る人もなく、高齢になる…不安でしょうね。子どもには迷惑かけたくない…。
- 定期的に見回ってもらったり、困った時コールができたり、収入の少ない人には現金支給は難しいので、公的なお金の減免制とか…。

### <ボランティアサークル(丹波地区)>

- 町内の巡回バスの回数が少ない。午前、午後にもう1便何とか増やすことはできないかなと思います。
- 配色サービスの該当者の条件、病院や買い物の送迎条件、入浴サービスの条件の緩和
- グループホームの設立
- 高齢者にとって衣食住の基本の充実が必要。
- 竹野は特に交通の便が悪く、今は車に乗れるので何不自由も感じてはおりませんが、運転できなくなるとどうなるのか？考えただけで不安になります。
- 病院や買い物など希望の時間に少人数でも対応していただける運転サービス(有償でもいいです)を充実してほしいと思います。
- 老人の一人暮らしや老人世帯になれば、ちょっとしたことが無理になりますので、気軽に助けてもらえるところがあればいいと思います。
- 京丹波町は恵まれていると思います。正しく知り、うまく利用すれば・・・
- 高齢者の交通の確保。難聴者と要約筆記者、手話通訳者との交流会を月一回実施しているが、難聴者も高齢になり、送迎の必要な人が多い。今はサークル員が送迎しているが、事故をおこさないか心配。社協や行政で送迎してほしい。

#### <ボランティアサークル(丹波地区)続き>

- 支援を要する人達が、可能な限り住み慣れた地域や自宅で生活を続けられるように、在宅生活を支援するサービスの充実を図ってほしい。
- また、施設に入居する場合でも、費用の負担について安心して入居できるよう配慮してほしい。

#### <ボランティアサークル(和知地区)>

- 難聴の方以外でもあてはまりますが、行事に参加する際の「足」の確保が難しいです。町営バスも地域によっては限られた曜日以外はバス停も遠いです。デマンドバスもあればよいと思います。
- 和知共同作業所も仲間も高齢になり、親が亡くなったり、病気で入院するケースが増えている。食事提供や共同生活することが望まれます。
- 家族が緊急で入院や病気の場合、家庭に来て面倒を見てくれる人があれば、安心であるので、町独自でも制度を作ってほしい。
- 障害者の場合、病院に1人で行けないので、一緒に行って話をしたり、聞いたりしてくれる人があれば良いと思う。
- 障害のある人が検査を受けて、病気がみつかったても次の検査をするのが不可能である。例えばピロリ菌がみつかったてもカメラを飲むことが出来ない等。考える必要があります。
- 老老介護支援、困り事相談等のより一層の充実が望まれる。

#### <関係団体>

- 買い物・外出支援、生活困窮者への支援
- 子どもの居場所づくり、障害者のグループホーム
- 支え合いの地域づくり、地域ケア会議を設ける
- 公共交通機関の利用ができない人が多いので、送迎サービスを身体障害者に使いよい方法にする
- 和知地域はタクシーがない等、地域限定の過疎地有償運送の制度が受けられるのではないか。
- 人手が限られた社会なので、自助を重視する施策から直接的な給付、支援を行う施策に移行していく必要あると思う。特に貧困、雇用対策のために個人に対する直接的な給付を行っても良いと思う。また、介護等のサービスを提供する施策においては、提供者にもっとお金が回る仕組みを作る必要があると思う。きめ細かな部分が必要であるが、核となる部分にお金を集中させるべきである。
- 地域包括ケアシステムの構築、高齢者向け理容・美容出張サービス
- 保育環境の充実 (老朽施設や設備の改修、安全対策、保育士の労働環境の改善)

### (4)福祉施策等への意見・要望

#### <ボランティアサークル(瑞穂地区)>

- 現在やっていますが、「筋トレ、脳トレ」の機会が地域中でできますことは大切なことだと思っています。
- 私が参加させて頂いているデイサービスでは頭・手・体の運動をされているので私自身が楽しくさせて頂いています。こんな福祉サービスが最高だと思います。
- 細かいサービスをNPOや民間施設に任せるのではなく、町(行政)が率先して行ってほしい。
- 「一億総活躍社会」と言われているからには、皆が気軽に参加できる場所があればいいと思います。
- 子どもも大人も男も女も健常者も障害者もすべての人が、安心して暮らせる町にするための施策を考え、実行してほしい。
- 町全体が若い人の少ない町になってきつつあるので、高齢者が共に支え合いながら生活していかなければならない地域になるでしょう。そうすると、家族と同じように関わってくれる人、人員の配置が必要になってくるのでは…とはいえ人数は少なくとも若い人の住みやすい町でないといけないし…。
- 何をどう答えればいいのでしょうか…。難しく困りました。福祉と言ってもそのサービス等を受ける対象はオギャーと産まれて死ぬまで…。つい自分の年齢を中心に考えてしまいがちです。

### <ボランティアサークル(丹波地区)>

#### ○福祉施設の見学及び所在説明

- 特に関心事がない限り、広報紙をゆっくり読む事が少ない。朝晩の放送はなるべく聞くように心がけています。ケーブルTVもほとんど見ない。そんな人も多いのではと思いますので、できることなら放送で色々流してください。
- 介護保険の有無に関わらず条件の緩和を願う。
- 出前講座の内容を知りたく思います。
- 子育てや介護などで離職（特に女性）に追い込まれている厳しい現実が多くあります。色々なことで何世代も同居することが難しい時代なので、必要な人が（特に独居老人や老人世帯、子ども達に介護が無理な時など）希望すれば早急に受け入れてもらえる施設というか共同で生活できるグループホームのような所が地域にあればいいと思います。
- なんとか自分で自分の事が出来る間は自分の家で暮らしたいと思うのが普通だと思いますが、超高齢社会になり、認知症など多くの問題がありますので、地域の支え合い、助け合いだけでは解決できないことも多くあると思います。
- サークルの皆様にご相談する時間もなく、自分の勝手に書かせていただきました。
- 子育てサロンを開いたのは今から7年前です。当時はスタッフは10人以上だったのですが、今は6人で開いています。南丹保健所主催「子育てパートナー養成講座」を受講した京丹波在住の人達で立ち上げました。子育てサロンの場所がなかった当時は、旧質美保育所、旧質美小学校を利用していましたが、家賃が払えず、社協にボランティア登録をして現在の中央公民館になりました。どんな講座を受講しても2・3年は面倒を見て頂けますが、その後は予算等の都合で打ち切りが多いのが残念です。例) 南丹保健所 福祉室、京都 子ども未来室 などです。
- 色々な活動をどうすれば利用できるかを、多くの方に知っていただきたいです。

### <ボランティアサークル(和知地区)>

- 作業所に手伝いに入る事で、色々感じる事が多いですが、特に最近、社協の職員の異動が多い。障害者もいろいろで新しい職員になれるのが苦手である、慣れた頃にまた異動がある。これでは信頼関係もできない。心理的に不安定で仕事が出来ない等感じています。職員だけでなく仲間の方も考えてほしいです。以前色々言ってきましたが、末端の意見も耳を傾けてほしいです。
- 最近も人事異動により社協も二人になってしまいました。社協の役割が増えるこの頃はサービスが不行き届きとなる。特に疑問に思っています。地域に根差した対応がまた顔を合わすことで安心感があります。
- 現在の社協会長は年齢的にも老人福祉には力を入れておられるようですが、一般の障害の人にも関心をもってほしいです。会長はもっと退職後の人ではなく、若い人で福祉に情熱をもって取り組んでもらえる人材が必要である。
- 視覚障がい者ガイドヘルパー活動で、京都ライトハウスから派遣された場合と、社協から派遣された場合と、同じ支援をしていますが、賃金等の待遇に格差があるのでは正されたい。これはガイドヘルパー活動をしているボランティアからの疑問です。

### <関係団体>

- 地域の課題を見た中で、福祉だけの視点では解決し難いことが増えてきている。いろんな部署と連携した取り組みがもっと必要と感じる。
- 子ども達が健やかに育つことができる地域づくりの推進。
- 高齢者が安心して暮らし続けることができる地域づくりの推進。
- 災害時の対応等について、十分なことが図れるよう、高齢者のことを含み具体的施策が必要。
- 身体障害・精神障害に関する相談員制度について、現行制度では相談員になる人がいない状況であり「身体障害者本人」「精神障害者家族」の基準を改める必要がある。一例でいうと、民生委員がその役割を担ってもらう等。
- 瑞穂保健福祉センターに母子寡婦福祉会の事務局を置いてもらい大変お世話になり、感謝しています。京丹波町はとても協力的に応援してもらい、ひとり親の方が自立できる事を願っています。母子は下の子どもが20歳までを言い、寡婦は20歳になった時を言います。年齢が色々ですが、他の老人会等へ入られる方は会をやめられたり、小さい子どもさんがおられる時は行事参加されますが、大きくなったら会をやめられる状況です。皆さんに参加してもらえたい行事をするのも正直大変ですががんばってみます。
- 会員の意見を集約する機会もなく、また、そうした手続きを取ることも難しい質問内容ですから、回答は会長個人の考えです。個人の考えが必要でなければ破棄してください。

## アンケート調査結果及び関係団体等懇談会からみる課題

### 1 アンケート結果からみる特徴

---

#### ○福祉への関心度

◇8割以上の方が「関心がある」と回答しており、性別では、“男性”よりも“女性”の関心が高く、年齢別では、年齢が上がるにつれて関心が高くなっています。

#### ○福祉を必要とする人の支援の方法

◇「福祉を必要とする人は、行政と住民が協力しながら、地域で支えあうべき」が6割以上を占めています。

#### ○京丹波町に住み続けたくない理由

◇「交通の便が悪いから」が60.5%で最も多く、次いで「買い物等生活に不便だから」が59.6%、「働く場所がない（遠い）から」が29.8%の順となっています。

#### ○ご近所付き合いについて

◇ご近所や地域の方からの支援について、「ある」という回答が53.8%と過半数を超えています。また、近所付き合いの程度として、「困っている時に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくお付き合いをしているお宅がある」が45.2%で最も多くなっています。

#### ○地域活動の状況

◇全体的には「現在活動している」が49.0%で最も多くなっています。一方で、18～29歳については、「活動したことがない」が62.3%、活動していない理由は「時間がない」が39.7%と最も多くなっています。

#### ○ボランティア活動の状況

◇「参加したことがない」が38.9%で最も多く、「現在参加している」が23.8%となっています。

◇活動をする上で必要な改善点としては、「活動の後継者やリーダー役になる人がいない」が25.1%で最も多く、次いで「参加者がなかなか集まらない」が23.8%、「活動に関する情報収集や情報発信する場、機会が少ない」が21.1%の順となっています。

#### ○支え合い、助け合い活動の活発化に必要なこと

◇「地域に住む人同士が互いに理解しあい、助け合おうという意識を深める」が40.2%で最も多く、次いで「住民自らが日頃から地域のつながりをもつように心がける」が36.3%、「助け合い・支え合い活動に対する、行政の支援を充実させる」が22.2%の順となっています。

#### ○困ったときの相談先

◇「家族や親戚」が45.9%で最も多くなっています。一方で、「役場の相談窓口」は7.2%、「社会福祉協議会の相談窓口」は5.5%となっています。

#### ○助けが必要なときに欲しい支援

◇「災害時の手助け」が39.0%で最も多く、次いで「安否確認の声かけ」が31.6%、「急病になった時の看病」が29.9%の順となっています。

○災害時の備えとして重要なこと

◇「自分や同居する家族の避難方法の確認」が46.8%で最も多く、次いで「日頃から隣近所とのあいさつ、声かけや付き合い」が41.7%となっています。

○福祉サービスの情報の入手先

◇「広報誌」が44.3%で最も多く、次いで「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が39.4%、「知人・友人」が27.1%の順となっています。

○住み慣れた地域で生活するために大切な福祉のあり方

◇「在宅福祉サービスの充実」が31.6%で最も多く、次いで「施設サービスの充実」が24.7%、「地域住民がともに支え合い、助け合える地域づくりの推進」が23.9%の順となっています。

○地域別の特徴

| 設 問              | 地域 | 特 徴  |
|------------------|----|--|
| 住み続けたくない理由       | 和知 | 「近所付き合いが、わずらわしいから」が32.3%と他の地域より多くなっている。                              |
| 近所付き合いの程度        | 丹波 | 「困っている時に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくお付き合いをしているお宅がある」が36.1%と他の地域より少なくなっている。 |
|                  | 和知 | 「困っている時に、相談をしたり、助け合ったりするなど、親しくお付き合いをしているお宅がある」が54.5%と他の地域より多くなっている。  |
| 地域活動の状況          | 丹波 | 「現在活動している」が38.9%と他の地域より少なくなっている。                                     |
|                  | 和知 | 「現在活動している」が57.1%と他の地域より多くなっている。                                      |
| 参加している地域活動       | 和知 | 他の地域では「自治会（行政区）」が最も多くなっている中で、「老人クラブ」が最も多くなっている。                      |
| ボランティア活動の状況      | 和知 | 「現在参加している」が27.7%と他の地域より多くなっている。                                      |
| 参加したい地域・ボランティア活動 | 瑞穂 | 他の地域では「環境美化活動」が最も多くなっている中で、「地域づくりに関する活動」が最も多くなっている。                  |
| 福祉サービスの情報の入手先    | 和知 | 他の地域では「広報誌」が最も多くなっている中で、「新聞・雑誌・テレビ・ラジオ」が最も多くなっている。                   |



## 2 関係団体等懇談会における主な意見の概要

---

### ○地域の認識と活動について

- ◇旧地域（丹波・瑞穂・和知）ではなく京丹波町を一つの地域として捉えるという認識が徐々に根付いている。
- ◇活動の内容によっては旧地域の特性や手法が今も根強く残っている。
- ◇取り組みの内容によって京丹波町全体で取り組むこと、旧地域独自の特性を生かして取り組むこと、といった棲み分けが必要。
- ◇旧地域のそれぞれの良さを京丹波町として打ち出していくことが求められる。

### ○旧地域や団体間の交流について

- ◇旧地域間の一部の関係団体同士はそれぞれに独自の交流を行っている。
- ◇すでに旧地域という区分にこだわらずに活動を行っている団体もある。
- ◇社会福祉協議会においては、分野を超えて多様な団体が交流できる機会提供を行っている。
- ◇分野を超えた団体間の交流の必要性は感じない。

### ○活動における課題について

- ◇活動の後継者がいない。
- ◇情報提供が必要。（活動内容のアピール、行政サービスの周知、災害時要援護者の所在等）
- ◇公共施設利用。（手続きの簡素化、利用料の低減化、日曜日の利用等）
- ◇距離の遠い地域への移動が困難。
- ◇活動資金不足。（補助金も少ない）

### ○地域における課題について

- ◇交通利便性の向上（高齢の独居女性向け、他地域から和知への移手段、運転免許があればだれでも送迎できるシステム等）
- ◇高齢者が外に出て活動できる環境整備
- ◇若年層の減少
- ◇利己的な考え方を持つ人の増加
- ◇施設の質の向上（学童、図書館等）
- ◇他分野と福祉の連携（学校教育の中で老人会による知恵の伝達等）
- ◇世代間の意識の一定の統一（若い人は“共助”が苦手）

## 【参考】関係団体等懇談会の事前ヒアリングシートにおける主な意見

---

### ○地域における主要な問題・課題

- ◇障害等も含めた多様性の理解に向けた情報提供
- ◇高齢者の独居、老老介護への支援
- ◇働きながら子育てをするためのサービス
- ◇様々な地域活動への若者の参加促進
- ◇買い物、通院等も含めた交通利便性の向上
- ◇就業の場の確保や就業のための支援
- ◇様々な施設、集まれる場所の整備
- ◇地域の独自性や魅力の創出

### ○活用できそうな福祉資源

- ◇地域の人的資源（元気なシニア、小さな子どもを家でみている保護者、学生等）
- ◇既存の公共施設・福祉施設（山村開発センター、若竹センター、食彩の工房、公民館等）
- ◇空き家、空き店舗、空き地
- ◇畑川ダム周辺
- ◇地域の特産物（きれいな水、炭焼き俵あみ等）

### ○今後特に望まれる福祉施策や福祉サービス

- ◇福祉団体間の連携
- ◇買い物・通院等の支援（交通の確保、移動の介助、理容・美容出張サービス等）
- ◇福祉関連施設（病気の子や夜間対応の保育所、子どもの居場所、グループホーム等）
- ◇独居世帯や介助者の入院時等の支援（食事提供、共同生活等）
- ◇福祉従事者の増員（看護師、介護スタッフ等）
- ◇通学・帰宅時の見守り
- ◇交通利便性の向上（町内の巡回バスの増便、デマンドバス、送迎サービス、過疎地有償運送の制度等）
- ◇サービス利用の条件の緩和や施設等の利用料等の減免
- ◇福祉サービス従事者の収入の増加
- ◇貧困、雇用対策
- ◇地域包括ケアシステムの構築、地域ケア会議の設置

### ○福祉施策等への意見・要望

- ◇筋トレ・脳トレの機会提供
- ◇だれもが気軽に集える場所
- ◇多様な情報提供（福祉施設の見学及び所在説明、出前講座の内容）
- ◇介護保険の条件緩和
- ◇地域・ボランティア活動等への継続的な支援
- ◇福祉サービス提供時の賃金等の待遇の格差の是正
- ◇多様な主体との連携
- ◇災害時要援護者への支援
- ◇若い世代の人材育成

### 3 アンケート調査結果及び関係団体等懇談会からみる課題のまとめ

#### ◇地域について

合併から10年が経過する中で、京丹波町全体での取り組みのあり方、旧地域（丹波・瑞穂・和知）としての取り組みのあり方といった独自の棲み分けが徐々に明確になってきています。

ゆるやかな地域間のつながりが形成されるように、旧地域のそれぞれの良さを京丹波町として打ち出していくことが求められます。

#### ◇後継者の育成

「福祉を必要とする人は、行政と住民が協力しながら、地域で支えあうべき」という考えを多くの住民の方が持っている一方で、若い世代については「時間がない」という理由で地域の活動等への参加がほとんどみられない状況です。地域活動やボランティア活動等について、若い世代の活動への参加の促進を含め、後継者の育成が課題となっています。

#### ◇交通利便性の向上

「交通の便が悪いから」「買い物等生活に不便だから」京丹波町に住みたくないという意見が見られます。交通弱者、とりわけ独居の高齢者や障がい者が買い物や通院、様々な地域の活動へ参加するための交通手段の確保が求められています。

#### ◇情報発信の強化

ボランティア活動をする上で「活動に関する情報収集や情報発信する場、機会が少ない」という意見が多くなっています。

一方で、行政サービスのさらなる周知が必要という意見もみられます。特に困ったときの相談先として「役場の相談窓口」「社会福祉協議会の相談窓口」が選択されることが少ない状況であり、こうした窓口の存在やサービスの内容を周知する必要があります。

また、福祉サービス情報の入手先として「広報誌」という意見が非常に多く、今後も誌面での継続的な情報提供を行うとともに、内容の充実・精査を行う必要があります。

#### ◇災害時の備え

「日頃から隣近所とのあいさつ、声かけや付き合い」が重要という意見が多くなっています。また、こうした緊急時も含めて、支え合い・助け合いの活動を活発にするには、「地域に住む人同士が互いに理解しあい、助け合おうという意識を深める」ことが必要という意見が多くなっています。

また、災害時要援護者については、生命に関わる可能性もあることから、関係団体への必要な情報提供が求められています。

#### ◇公共施設等の地域資源の活用

地域活動・ボランティア活動における場所・人材の確保や、世代を超えて住民が集える場所を求める意見も多くなっています。

公共の有閑施設や空き地・空き家等に加え、リタイア後の高齢者や学生といった人材等、地域の様々な資源をつなげ、課題に対応していくことが必要です。

#### ◇分野間・団体間の連携

多様化する福祉課題について、既存の福祉の枠組みのサービスや取り組みだけで対応することが困難になる中で、教育と福祉の連携といった分野間・団体間での連携による課題解決の手法の検討が求められています。

## 8. 自由意見

### ご意見、ご提案など（FA）

- 自由記述については、289人から340件の意見がありました。意見分類ごとの意見数と主な意見は以下のとおりです。

| 意見内容   | 件数 |
|--|----|
| <p>高齢者福祉の充実（介護・在宅福祉・シルバー人材センターなど）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が気軽に体操や脳トレや手作り教室に通える場を、多く作って欲しい。</li> <li>子供の事ばかり良い方に進んでいるが、老人で一人暮らしの事も、もっと考えてほしいと思う。少しは生活の方面でも補助をしてほしいです。年金生活はとても苦しいです。</li> <li>過疎地域であるけれども高齢者の福祉によく力を入れておられると思います。</li> <li>在宅福祉の充実。本人が過ごしやすくするための支援。経済的に、介護する人は収入がなくなる。必要経費のできるだけの援助。要介護2までの人が（参加出来る人、誰でもが）、少し助けてもらいながら集えるグループホーム的な場所が、地域に点在するとよい。空家や学校等の施設跡などの利用。スタッフは地域力を使って。</li> </ul>                                     | 61 |
| <p>地区での事業・地域活動・ボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツを町民の皆さんができる機会を増やしてほしいです。例 以前開催されていた野球大会等</li> <li>福祉、地域、ボランティア活動に参加して下さる皆様には感謝しています。私も仕事から離れ、自分に出来る事があればボランティアに参加したいと思います。</li> <li>ボランティアは他人のためでもなく、自分のためだと信じています。地域で支援したり助けられたり、自分の地域は自分たちの手で守る事が大切だと思います。</li> </ul>   | 32 |
| <p>まちづくりについて（人口減対策、産業の活性化、定住環境）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本町に住み続けたいと皆が思える町にするには何が必要なのかしっかり行政でも考えて下さい。土地、畑、山があるだけでは生活出来ません。年を重ねてもボランティア活動の方や地域の心ある人々のお世話になってばかりでは心苦しいことです。</li> <li>もちろん福祉は限界集落等においては必要なことですが、老人ばかりに目を向けていては村は消滅していきます。もっと若い人達が住みやすくずっと住みたいと思う村でなければいけません。住のインフラ、食のインフラ、経済のインフラをもっと整備してほしいと思います。小手先の事をして将来的に意味はありません。思う事は色々ありますが、皆様の何とかしようと思う気持ちが感じられてホッとしています。</li> <li>人口減少を食い止めるため、早急に取り組んで頂きたい。早くしないとこの村は壊滅してしまいます。</li> </ul> | 31 |
| <p>地域福祉の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行政、地域が一体となって福祉サービスを向上していけたらいいと思います。</li> <li>現在も福祉サービスの支援を受けており、ありがたく思っています。</li> <li>核家族化により家族間の愛情が希薄になっており、福祉教育、人権学習の充実、強化がすすめられるのではないだろうかと思う今日この頃です。</li> </ul>   | 31 |

|  |    |
|--|----|
| 共助   | 29 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域福祉、地域の人々が共に考えなければならない事だと思います。身近に住む人との助け合いや声かけなど個人個人ができる事を何からでも実行できる様に努力すべきだと思います。</li> <li>・共に助け合い、助けてあげる。助けてもらう（共助）各自治区での体制作りが今後は必須。行政、関係団体任せは続かない。継続、持続可能な社会の実現には地域での共助が求められる。その体制作りが今後の課題であると痛感する。</li> </ul>   |    |
| 道路整備・交通の利便性の向上   | 19 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・タクシーが廃止され急用ができて交通手段がなく困っています。タクシーに代わる交通手段について行政として何かよい方法を考えていただきますよう、お願いいたします。</li> <li>・町内バス運行を午前午後、せめて一往復ずつはあってほしいと思います。買い物や生活に不便を感じております。今現在では午前中一往復のみです。午後も必要と考えます。</li> </ul>   |    |
| 自助   | 17 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・1日でも夫婦2人そろって元気で暮らせることを望んでいます。</li> <li>・介護を必要にならぬ様、健康に努めなければならない。あと数年で職員が無くサービスが出来ない時期が来る。</li> </ul>  |    |
| アンケートについて  | 16 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートをいかして下さい。声を聞いて下さい。</li> <li>・アンケートを通して実際に改善に繋がる動きをしてほしい。</li> </ul>   |    |
| 相談体制の充実（民生委員、社協、役場）  | 14 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協の相談に行きましたが具体的な言葉はありませんでした。相談によるはっきりした事を答えてほしいです。うやむやになりました。残念です。</li> <li>・何事も福祉関係や役場関係がもっと力を入れて福祉の事に積極的になれば何事にも相談できるのではないかと思います。</li> <li>・地域の間人関係が見えすぎていてこれ以上の人間関係は煩わしいという思いがある。日常生活での「ちょっとした困り事」について気軽に応じてもらえる第三者的な相談機関があると良い。→ご近所さんには頼みにくい。</li> </ul> |    |
| 行政について   | 14 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワンストップサービスを数ヶ所にしてほしい。</li> <li>・燃えるゴミ以外のゴミが出せない。場所が遠いので。家まで取りに来てほしい。</li> </ul>  |    |
| 将来の不安  | 13 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・年を重ねるに従ってボケ、忘れ、認知が私も家族に発症したらどうなるか？と不安でいっぱいです。よろしくお願ひしたく思います。</li> <li>・何か人の役に立つ事が出来る間は、生き甲斐があると思います。自分が思う様に動けなくなる時来ると思うと不安です。</li> </ul>   |    |
| 外出支援（通院、買い物等）  | 12 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人暮らしの方で救急車を呼ぶ程でもない時、近所にも車を頼むのにも無理な人、でも一人では病院は行けずそういう時、病院が車で迎えに来てもらえる様にして頂きたい。</li> <li>・運転ができなくなった時に、買い物に行けるようなサービスなどを充実させて欲しい。</li> </ul>  |    |

|  |    |
|--|----|
| 今のままだと住み続けるのに不安があり過ぎる。車が無くても安心して暮らせる町づくりを作って欲しい。   |    |
| 子育て支援  | 11 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ番組等でも子供1人か2人家庭がよく映される。この調査書11Pも2人の子供で。1人か2人が当たり前のようなイメージを受ける。子供の数を3人4人としてほしい。以上機会があればその方面に伝えてほしい。</li> <li>・京丹波町は高齢化が進み少子化も進んでいます。その中で町の病院に産婦人科の設置を強く求めます。まず子供を産める環境を作らなければ人口は増えないと思います。</li> </ul>     |    |
| 経済的支援、生活保障   | 7  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活保護世帯より安い国民年金生活者の生活保障を国が充実してほしい。</li> <li>・夫婦のみで合計の年齢が130才を超える世帯の固定資産税の軽減を是非お願いしたい。</li> </ul>  |    |
| 障害者福祉  | 6  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・京丹波町に障害者が安心して住める所。自宅が地域で暮らすという点では良いが、家族が高齢になってくると不安になる。いざとなれば入所して、一生親として安心して任せられるような所があればと思う。障害者の親として誰もが不安に思っている事だと思うので、具体化して欲しい。親として、今すべき事があるのなら教えて欲しい。</li> <li>・行政は、障害者に対し高齢者と同じくらい目を向けて欲しい。</li> </ul> |    |
| 医療環境の整備  | 5  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・この地域は開業医が少ない（内科、外科、皮膚科）</li> <li>・健康でありたいという願いは人間誰もが持つ、普通のもので。はからずも病気になった身近な人を多く見聞きしてきました。重い腎臓病を患い南丹病院まで人工透析に通院されている方は本当に大変だと思います。京丹波病院に人工透析の設備を整えて頂く事をこの場を借りて要望するものです。</li> </ul>                         |    |
| その他  | 15 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・不便な場所にいますのでよろしくをお願いします。</li> <li>・お世話になって、ありがとうございます。</li> </ul>   |    |

京丹波町地域福祉計画策定スケジュール（予定）

| 年度       | 時期                    | 策定委員会等   |
|----------|-----------------------|--|
| 平成27年    | 8月中旬                  | 業務委託業者の決定  |
|          | 8月26日（水）              | 第1回策定委員会<br>◇委嘱状の交付<br>◇計画策定スケジュールの概要説明<br>◇講演       |
|          | 9月～10月                | アンケート素案作成  |
|          | 11月2日（月）<br>11月18日（水） | 作業部会<br>第2回策定委員会<br>◇意見交換<br>◇アンケート調査の実施について         |
|          | 12月11日（金）<br>～25日（金）  | アンケート調査  |
|          | 1月～2月上旬               | アンケート調査 集計・分析  |
|          | 2月19日（金）<br>2月26日（金）  | 作業部会<br>第3回策定委員会<br>◇アンケート調査結果（中間）報告<br>◇次年度に向けた協議   |
|          | 平成28年                 | 4月下旬から5月上旬   |
| 5月31日（火） |                       | 関係団体等合同懇談会（30団体）<br>※3グループに分けて実施<br>①12団体、②8団体、③10団体 |
| 6月24（金）  |                       | 第4回策定委員会   |
| 8月初旬     |                       | ワークショップ  |
| 8月下旬     |                       | 第5回策定委員会   |
| 12月      |                       | 第6回策定委員会   |
| 12月～1月   |                       | ○パブリックコメントの実施  |
| 2月       |                       | 第7回策定委員会<br>◇最終取りまとめ                                 |
| 3月       | 地域福祉計画策定              |  |